2012 年 10 月 31 日

日税メールステーション特別号

～海外ビジネス情報～

あるビジネスマンの「アジア出張記。」

第１回：グローバルナレッジの海外展開

"グローバル化"、"アジア進出"などという言葉を日に何度も見聞きします。
日本経済の成熟と今後の縮小懸念もあいまって、成長著しい海外の地域(≒アジア)に積極的に出ようと、これまで以上に各企業が注力しています。

当社もその例にもれず、今年の７月に、シンガポール、マレーシア、インド、インドネシアの Global Knowledge を統合し、新たな"Global Knowledge Asia"グループとしてアジア展開を本格的に開始しました。
これにより、社名の通りグローバル企業となり、Asia のグループのリーダー的存在としてグループを引っ張っていく立場となりました。まったくゼロの状態からアジアに進出することと比較すれば、同じ"Global Knowledge"ブランドを掲げてサービス提供を行っている海外企業が存在して、これまでに交流はあった点は、かなり有利であったと言えますが、それでも手探り状態での運営で、各国 Global Knowledge のスタッフらと協議を始めて急がず確実に進めていこうとしています。

現時点において、グローバルナレッジのグローバル対応には以下の３つがあります。
・Global Knowledge Asia と連携して、ワールドワイドでサービスを提供する
・当社のお客様にグローバル対応支援用のトレーニング等サービスを提供する
・海外の IT ベンダーへの技術支援

本コラムでは、主に１番目と３番目にからんだ各国出張の様子を、堅苦しくない内容で、全６回の予定で記していきます。

第１回：グローバルナレッジの海外展開
第２回：カンボジア出張記
第３回：シンガポール出張記
第４回：マレーシア出張記
第５回：インド出張記
第６回：まとめとこれから
※回数や内容は変更になることがあります

まず初回の本稿では、各国出張記の前段となる、背景やあらましをご説明いたします。

【情報提供】グローバル ナレッジ ネットワーク株式会社 http://www.globalknowledge.co.jp/

■Global Knowledge Asia の統合

GK-Asia の統合においては､｢買収という言葉を使わずに"統合(merger)"とする｣ことを徹底しました。

これは、アジアのスタッフへの配慮を第一に考えてのことです。幸い、日本との統合は好意的に受け取られており、安心しました。さらに、上下関係ではなくグループ一丸となって相乗効果を出すことを明示する意味合いもあります。

統合後、各国の Global Knowledge に出向き、統合の目的や今後の展望を説明し、Q&A や双方のビジネスの説明等を行ってきました。各国での出来事などは、

今後の各回で述べていきます。

■海外の IT ベンダーへの技術支援

Global Knowledge Asia とは別に、Global Knowledge Japan として、カンボジアの IT 企業に技術支援をしております。Shibatu Sonatra 社という今年初頭に設立されたばかりの日本の資本が入った現地 IT 企業です。10 人に満たない小規模の企業(※カンボジアでは、20 人を超えるとかなり規模が大きな IT 企業であると言えるそうです)で、技術者は皆若く、大きな伸びしろを持っています。

反面、開発プロセス(※開発手順や成果物などの取り決め)など、自社として有するべき取り決めやノウハウがなく、これを整備するべく技術支援を行っています。

実際に現地に赴き、同社の業務内容や傾向、現在の開発方法などを十分にヒヤリングし、全体像を描き、優先度の高い部分から実装を行う、という方法で進めています。現時点で、全体の２割ほどがようやく終わったというところでしょうか。

詳細は第二回の「カンボジア出張記」にてお伝えします。

ここ最近の出張だけでも、シンガポール、マレーシア、インド、カンボジアの４か国に赴き、現地の人達と時間を共にしてきました。アジアと一口に言っても、国によって歴史や宗教、習慣や考え方などが明らかに異なります。こと、日本の独自性・特異性については痛感します。

いくつか例を挙げるならば、

・ビジネス活動や講義の大多数が日本語で行われる（他国は英語）
・日本語に翻訳された書籍が入手できる（他国では自国語翻訳の書籍は多くない）
・日本の高品質は他国が非常にうらやむものである
・日本は宗教色が非常に薄い
・日本人は皆まで言わず/聴かず行間を読む(ハイコンテクストコミュニケーション)
・"和を以て尊しとなす"(十七条の憲法)

といったところでしょうか。

昔は「欧米に追い付き追い越せ」という姿勢で経済発展をし、「日本は遅れている/劣っているので他国を見習う(真似る)べき」という考えがあり、今でもその傾向は少なからず残っています。しかし日本の長所や優位性、先進性は多分にあります。

残念なことに、日本の"奥ゆかしさ"や"謙遜さ"は海外では評価されず、また日本が元気をなくしている

間にアジアの他国が急躍進したことで、日本の存在感は圧倒的に小さいものとして受け止められています。どの国に行っても、中国や韓国の存在のほうが、日本よりもはるかに大きいのです。

しかし、各国は日本の優れた点を認識しており、日本のリードに対する期待を確実に持っています。

実際に、カンボジアのパートナーは、「紳士的な日本の、特に動きの早い中小企業に期待をしている」と語っていましたし、各国 Global Knowledge では、日本の資本が入ることで、現地の日系企業へアタックできるなど、諸々の支援が期待できる、という声が聞かれました。

これらの期待に対して、結果を残せるかは、これからの自分達の行動や決断にかかっています。各国での出張時に、我々がどのように動き、何を感じたのかなどは、次回以降の各国記編にてお付き合いください。

【執筆者】

柳 恵太（やなぎ けいた）

グローバルナレッジネットワーク株式会社

サービス戦略本部 本部長

ソフトウェアベンダー、メーカーにて主に移動体通信システム開発のエンジニアおよびプロジェクトマネージャを経て、2005 年にグローバル ナレッジ ネットワークに入社。新サービス立ち上げや技術者育成カリキュラムの企画・開発・実施、大型プロジェクトのマネジメント等の業務を経て、2011 年 9 月から現職。

現在は、サービス企画、マーケティング、海外展開等を推進する部門を統括。

【グローバルナレッジについて】

グローバルナレッジネットワーク株式会社は、世界約 30 か国に展開する IT とビジネススキルのトレーニングプロバイダーです。国内外で活躍するビジネスパーソンに向けて、ヒューマン・スキルやビジネススキル、オリジナル IT トレーニングや IT ベンダーの認定トレーニングを提供しています。

▽あるビジネスマンの「アジア出張記。」はこちらのサイトでもご覧になれます

http://blog.globalknowledge.co.jp/asia/